JRPみえばん
百万石
47
1980・7

伊勢市古市町
東　洋介
百万石編集部

荒神山梅雨煙り

荒神山では　ありがとうございました。
他にいろいろあったことはさておいて、これは、僕だけの　あと始末記ですが ――

あの夜、僕は刀を抜き合わせる間もあらばこそ、一刀のもとに斬り倒されてしまいました。でも、斬られ方が少し気にいりませんでした。何かこう、すかっとした斬られ味がなかったわけです。　つまり、もうちょっと恰好よく死にたかったのですね。　斬られ役には斬られ方の美学というものがあるのです。

で、どこが気にいらないかというと、写真が駄目であるのなら、その写真を破り捨てるというようなやられ方がいいのです。もっとはっきりいうと、俳句を引合に出されるのがいやなんです。もちろん そういうふうに見られるようになった責任は、これまで何か言ったり書いたりするとき、いつも俳句を仲だちにしてきた僕自身にあるのですが。

でも、これは決してほめられたことではないし、言いわけの仕方としては最低のことなんですが、今の僕は、すこしも俳句に熱心ではないのです。例えばJ.R.Pの例会には出ても、句会には ここ何年も出席していないし、吟行のために休暇などとったことはないのに、写真の集まりには できるだけ参加しているし、写真集や雑誌は必ず毎日見ているのに、俳句のそれを手にとることはめったにありません。ですから、そこ ここの言外に感じられる「写真にも 俳句ほどの熱心さを」には納得できないのです。まして「写真を甘く見ている」という指摘には がく然とさせられたのでした。本当に思いもしないことでした。　それは、甘く見ているのではなく、僕にはまだ写真のというものが まるっきり わかっていないのだと思うのです。　でも、もし言われるように、甘く見ているように感じられるとしたら これは由々しき問題だと思います。

そこで、そうでないことを納得してもらうには、こうしてだらだらと釈明していても始まらない。作品でもって証明しなければすこしも効果がないと思うのです。

ここまできて気がついたのですが、あれは ひょっとすると東流のハッパだったのではないか、ということです。そう思うと急に気持が軽くなってきました。この次にまた、本当の意味で写真に熱心かと問い直されても 自信を持って返事できるようにしたいものです。

これなら斬られ甲斐があったというものです。

――ありがとうございました。

七月一日
東洋介様

伊藤政美

合評会のみんなの発言を
京子さんが丹念にメモしてくれた（メモの文が長いので チト変曲した。京子さん ゴメンして下さい。）
だれが どれを言ったのかは不明です

川島さん　外国で学した日本人の写真。新婚夫婦の写真。和ちゃんの3年先みたい。清水さんの10年前みたい。

服部博さん　20年後の安保か。しらけが的確にとらえられてる。相手をみごとに見抜いている写真だ。ウマイ！

ちえこさん　師匠を代えたらいかんな。今の所、何が好きか、自分でわからんみたい。いろいろ撮っていろいろ見て、自分が本当は何を撮りたいのか それを探ろう。

政美さん　まりを持った女の子の写真、いいな。しかし政美さんの写真の腕が見えてしまう。テクニックでこなせると思っているのではないか。　俳句のように、作るものじゃないと思う。

清水さん　（写真評は、敬遠のフォアボール）　バライタ V.S. RC　問答。

柳生さん　柳生さん 芯を入れましたね え。石仏は情がこもってお経の気持にふれるみたい。石とは思えない柔か味がある。カメラポジション とライティングの大切さを学ぶ。

隆サン　？　？

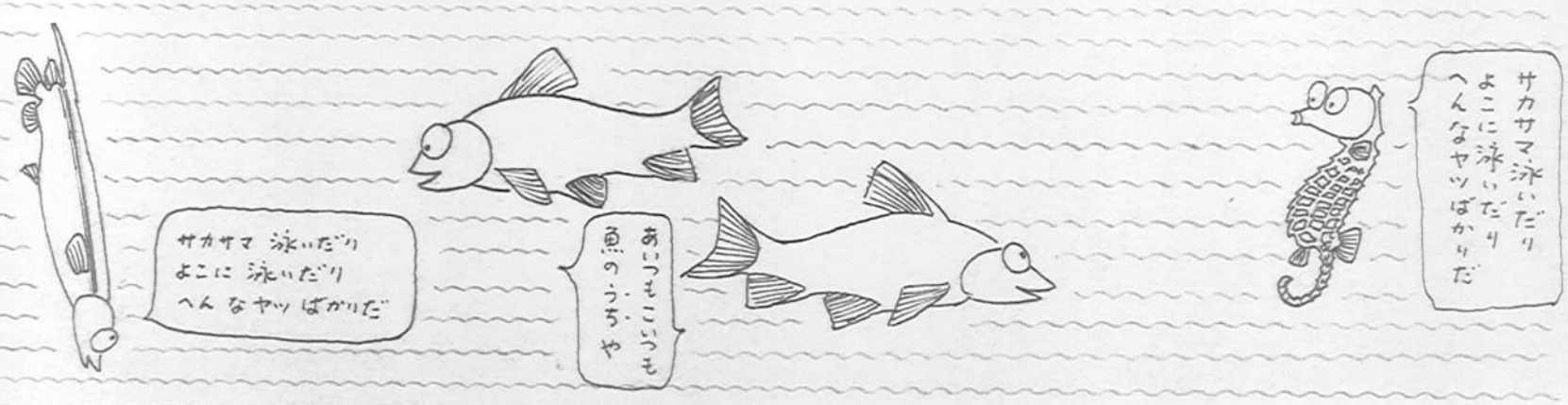
宮山さん　宮山君は頼もしくて2枚目、男くさい男だが、写真では ナイーブな ひとりの世界がある ようだ。しかし この廃校、はっきりしとらんゾ。

吉古さん　平凡な写真ばかりになってしもた、と思ったけれど、よく見ると ひらめきが随所にある。　ウーン　このアイヌの爺さんのポートの写真いいなア。

愛之クン　地域の文化を さらりと撮って　ぴしりと決めたな、ニクイ！

益さん　日本の祭りの心が出てる。欲がなくて　とてもいい。（大賞だ　大賞だ　大賞だ　期せずして声起こる！）

スミオさん　家族をとったのもいいし、心象風景の方もいいのかみる。いろいろ撮って下さい。自分が何か好きか探して下さい。

篤ちゃん　解説的写真でしかない。　焼きもわるいなあ。

和ちゃんの写真やとばかり思ってた。フーン　これ アッちゃんの？　和ちゃんに惚るイ。